



りんご特報 No.2

令和7年3月28日

J A中野市営農センター

J A中野市りんご・もも部会

展葉期から黒星病の早期感染拡大が心配されます。散布は樹全体にしっかりかかるよう徹底してください。薬剤散布時は、温暖・無風の日を選び幹や枝に十分にかかるように散布しましょう。

(調査地区：平岡)

ふじ	平年	R7 (予想)	R6	R5	R4	R3
発芽日	3/31	3/31頃	4/2	3/23	4/5	3/29



【第2回 定期散布】

*散布時期は目安です。生育状況により前後する可能性があります。

散布時期	展葉 2~3 枚目頃 (4/12 前後)	【定期散布】 散布日 ____ 月 ____ 日 (____) 散布量 _____ ℓ (14 日前、4 回)
散布薬剤	水 100ℓ 当たり 展着剤 (ハイテンパワー) 10ml ユニックス顆粒水和剤 47 50g	
対象病害虫	黒星病、モリニア病、(うどんこ病)	
散布量	10a 当たり：300ℓ	
注意事項	①【農家在庫のみ】ユニックス顆粒水和剤 47 に代えて、②ベフラン液剤 25 の 1,000 倍 (展葉期、6 回*但し開花期以降 3 回まで) でもよい。 *ベフラン液剤 25 は R7 年 10 月販売終了予定です。 ②【うどんこ病対策】コロナフロアブル 400 倍を加用する。	

カイガラムシ類の発生密度が年々増加しています。
 *「第1回」定期防除を徹底して下さい (特報No.1 参照)
 なるべく無風・好天の日に、樹全体に万遍なく散布して下さい。

次面もご覧ください

【黒星病 発生生態】

- 越冬：被害落葉、芽りん片、枝病斑で越冬する。（量的に重要なのは被害落葉）
被害落葉上で冬期間中に偽子のう殻が形成、発芽期頃から飛散し感染が始まる。
感染温度は 15～20℃。潜伏期間は約 10 日。
- 感染：一次感染は開花前後がピークとなり、落花 20 日後頃まで続き、その後病斑上に形成された分生孢子により二次感染が続く。菌糸の発育適温は 16～24℃で、分生孢子の発芽適温は 15～25℃である。
- 感染条件：降雨と密接な関係があり、雨が多い時または葉が濡れている時間が長い時に感染しやすい。温度 10～20℃で感染しやすく 1～2 週間で病斑が現れる。
盛夏期は高温乾燥のため一時停滞するが、9 月以降から再び発生が多くなる。

【輪紋病（いぼ皮病）対策】

輪紋病（いぼ皮病）の被害樹が増えています。病害は降雨によって飛散・拡大し果実に感染する危険があるため今一度散布量、順路等を確認し散布死角の無いように防除を徹底してください。

● 輪紋病（いぼ皮病）

【病徴】 1～2 年生枝：皮目がわずかに隆起した小さいいぼ

3～5 年生枝：典型的な小豆粒大の隆起したいぼを多数形成

【発生生態】 降雨によって飛散。4 月下旬～10 月まで続き、ピークは 6 月～8 月の降雨が多い時期。

【潜伏期間】 果実は 1～3 か月の潜伏期間を経て発病。枝では若い枝ほど感染しやすく、1 年生枝では発病までに数か月～1 年、2 年生枝以上では 1～2 年を要する。

【防除対策】 ①樹皮上のいぼ病斑を、褐変組織が皮部に多少残る程度に軽く削り取る。その後癒合剤（トップジン M ペースト）をしっかりと塗布する。（枝が完全に枯れている場合は切除する）
②生育期の防除：重点防除期 6～8 月。樹冠内部の枝にもかかるように（散布死角のないように）たっぷり散布する。



次回発行予定

4/17